様式第１７（第４２条関係）（第一面から第三面まで）

|  |
| --- |
| 認定更新申請書  申請年月日　 　2025年　7月　9日    　　経済産業大臣　殿  （ふりがな） えぬいーしーふぃーるでぃんぐかぶしきがいしゃ  一般事業主の氏名又は名称 ＮＥＣフィールディング株式会社  （ふりがな） かたやま　よしひろ  （法人の場合）代表者の氏名 形山　嘉浩  住所　〒108-0023  東京都港区芝浦４丁目９番２５号  芝浦スクエアビル  法人番号　3010401022977  　情報処理の促進に関する法律第３２条第１項に基づき、情報処理の促進に関する法律施行規則第４１条（①第１号、②第２号）に掲げる基準による認定の更新を受けたいので、下記のとおり申請します。 |
| 記  情報処理システムの運用及び管理に関する指針に関する取組の実施状況  　(1) 企業経営の方向性及び情報処理技術の活用の方向性の決定   |  |  | | --- | --- | | 公表媒体（文書等）の名称 | DXの取り組み | | 公表日 | 2023年　4月　3日 | | 公表方法・公表場所・記載箇所・ページ | ・公表場所 <https://www.fielding.co.jp/info/digital-transformation/strategy/>  ・記載箇所 NECフィールディングが目指す姿 NECフィールディングのビジネスモデル | | 記載内容抜粋 | ・NECフィールディングが目指す姿 NECフィールディングは約60年に渡りNEC製品を中心としたICT領域の保守・運用サービスを提供しています。近年はNEC製品以外のICT機器や医療機器、店舗設備、ロボットなどの運用・保守サービスまで提供範囲を広げています。ICT機器から生活に欠かせないインフラまで、あらゆるものごとの持続可能性を高め、社会に活力を与えるのが私たちの仕事です。デジタル環境と人の暮らしそのものを守り続け、安心安全で快適な暮らしを支えることを私たちは目指します。  ・NECフィールディングのビジネスモデル NECフィールディングはいつもお客さまのそばでビジネスを支え、ICT機器を中心に様々なビジネス環境を構築してきました。そこで培ったエンジニアの経験と膨大なナレッジ、お客さまに寄り添うために構築してきた全国約340カ所のサービス拠点と、24時間365日のサポート体制を活かし、①従来のICT機器だけではなく医療機器や店舗設備、ロボットなど非ICT機器までサポートするマルチメンテナンス、②お客さまのニーズに合わせた企画・設計を行い、構築、保守・運用までNECフィールディングがお客さまに寄り添いサポートする垂直統合、これら２つの軸で お客さまのビジネスをサポートする領域を拡大し「トータルサポート」を実現します。 | | 意思決定機関の決定に基づいていることの説明 | 本公表内容は2022年11月28日に取締役会で承認された 中期経営計画に基づき作成されています。 |   (2) 企業経営及び情報処理技術の活用の具体的な方策（戦略）の決定   |  |  | | --- | --- | | 公表媒体（文書等）の名称 | 媒体①：DXの取り組み  媒体②：NECフィールディングのデジタルトランスフォーメーション | | 公表日 | 2023年　4月　3日  ※媒体①および媒体②で共有の公表日です | | 公表方法・公表場所・記載箇所・ページ | 媒体① ・公表場所 <https://www.fielding.co.jp/info/digital-transformation/strategy/>  ・記載箇所 NECフィールディングのデジタル戦略 データ活用  媒体② ・公表場所 <https://www.fielding.co.jp/info/digital-transformation/ce/>  ・記載箇所 NECフィールディングのデジタルトランスフォーメーション | | 記載内容抜粋 | ・NECフィールディングのデジタル戦略 NECフィールディングは「トータルサポート」を実現することで、今後さらに多くのお客さまに品質の安定したサービスを提供し、安心・安全な社会インフラをサポートするために、デジタル技術を活用し①生産性向上・品質向上、②働き方改革、③営業プロセス変革に取り組んでいきます。   1. 生産性向上・品質向上 サポートサービス事業を拡大するためにデジタル技術を活用した現場の見える化、スキルの強化および補完、マネジメント変革等による現場作業の効率化を実現します。 また、サポートサービス領域拡大に伴い対応する製品やシステムが高度化、多様化し、現場作業も複雑化します。そのためデジタル技術を活用した高度な現場サポートを実現することで、現場作業の品質を向上し安定したサービスを提供します。 2. 働き方改革 NECフィールディングではお客さまに満足頂けるような高品質のサービスを提供するためES（従業員満足度）を非常に重要なものとして捉え、リモートワーク環境の改善・強化、ペーパーレス・電子化の促進や社内コミュニケーションの向上を目的としたメタバースの検証など、社員の働きやすい環境を整えるためにもデジタル技術を積極的に検証・活用しています。 3. 営業プロセス変革 お客さまへより良い価値を提供するため、営業プロセスも変革を必要としており、デジタル技術の活用を積極的に行っています。 お客さまとの接点をリアルとデジタルを用いた多彩な形へと整備し、蓄積したデータとAIなどの最新技術を活用することで、お客さまのビジネスを支え続けてきた強みを活かしたプロセスを実現します。デジタル技術を用いた最適なプロセスを実現することで、お客さまの本質的な課題を正確に素早く把握し、お客さまにより一層寄り添ったソリューションを提案いたします。   ・データ活用 NECフィールディングでは、デジタル技術を活用した戦略を実行するため最も重要な要素としてデータドリブン経営・マネジメントの実現にも取り組んでいます。お客さまの情報だけではなく、作業の難易度やエンジニアのスキルなど、ビジネスを長年サポートすることで培ってきた経験、蓄積してきた膨大なナレッジを整備し、データ活用の定着と高度化に取り組んでいます。  ・NECフィールディングのデジタルトランスフォーメーション １．息を吹きかければ数秒で血中アルコール濃度を計測 アルコール検知器に息を吹きかけると、わずか数秒で血中アルコール濃度を高精度に測定。データはGPSの位置情報と共に送信されます。基準値以下と計測されたカスタマエンジニアは車に乗車し、お客さまのもとへと向かいます。アルコールが検知された場合は、カスタマエンジニアに運転が可能になる時間を予測し、案内します。  ２．映像支援で作業品質の向上と作業時間の短縮を実現 保守作業時にスマートフォン利用した映像支援を行なうことで、テクニカルセンター（技術支援部隊）からの指示や品質管理が可能。仮想的な二人作業を行うことで、作業品質の向上と作業時間の短縮を実現しました。多品種機器の修理でも作業品質の向上をもたらします。  ５．AIにより、保守部品を特定　カスタマエンジニアの元に作業依頼が届きます AIにより障害の状況や原因究明のための問診を行うことで、障害受付オペレータの業務を効率化。電話応答率の向上を実現し、お客さまの不安を軽減します。その他、保守部品を管理している倉庫で部品の需要予測を行い、部品保有数の最適化を図るなど、AIの活用領域は着々と拡大しています。 | | 意思決定機関の決定に基づいていることの説明 | 本公表内容は2022年11月28日に取締役会で承認された 中期経営計画に基づき作成されています |   　　① 戦略を効果的に進めるための体制の提示   |  |  | | --- | --- | | 戦略における記載箇所・ページ | NECフィールディングHP　DXの取り組み　体制 <https://www.fielding.co.jp/info/digital-transformation/strategy/> | | 記載内容抜粋 | NECフィールディングはデジタル技術の活用を更に加速させるため、2022年4月にデジタル技術活用推進専属の組織として経営企画部の配下にDX推進室を立ち上げました。（現在は経営システム統括部・DXグループに移管・名称変更）  DXグループは経営幹部との意見交換や保守開発部門、営業統括部門など関係部門とのデジタル技術活用の計画策定を通じて、全社のデジタル技術活用の牽引・統制を行っています。  DX人材の育成も開始しており、DXグループと関係部門のメンバーに対してデジタル技術の活用に必要となる知識・知見・思考プロセス等に関する教育を積極的に実施しています。  また、デジタル推進人材を社内資格「DX推進者」として認定しています。 |   　　② 最新の情報処理技術を活用するための環境整備の具体的方策の提示   |  |  | | --- | --- | | 戦略における記載箇所・ページ | NECフィールディングHP　DXの取り組み　環境整備 <https://www.fielding.co.jp/info/digital-transformation/strategy/> | | 記載内容抜粋 | DXを加速するため、NECフィールディングでは2015年のスマート端末および社内SNSの利用開始を始めとしたITシステム・デジタル技術活用環境の整備にも積極的に取り組んできました。  その他、社内情報共有システムの整備、GPSの導入、社員の工数見える化などを継続的に推進しています。  データドリブン経営・マネジメントの実現に向けたデータ活用環境の整備を進めることで、デジタル戦略全体の実現を目指しています。 |   (3) 戦略の達成状況に係る指標の決定   |  |  | | --- | --- | | 公表媒体（文書等）の名称 | NECフィールディングHP  DXの取り組み　達成指標 | | 公表日 | 2023年　4月　3日 | | 公表方法・公表場所・記載箇所・ページ | ・公表場所 <https://www.fielding.co.jp/info/digital-transformation/strategy/>  ・記載箇所 達成指標 | | 記載内容抜粋 | DX推進による2025年度戦略指標として、「デジタル人材の拡充」および「お客さま対応件数の拡大」を掲げています。  ・デジタル人材の拡充  社員のデジタル武装化3,700名  DX推進者100名  ・生産性向上による年間お客さま対応160万件以上  　（2020年度比約125％増） |   (4) 実務執行総括責任者による効果的な戦略の推進等を図るために必要な情報発信   |  |  | | --- | --- | | 発信日 | 2023年　4月　3日 | | 発信方法 | ・公表場所 <https://www.fielding.co.jp/info/digital-transformation/strategy/>  ・記載箇所 経営者のDXにかける想い | | 発信内容 | 以下HP抜粋  DXという言葉が登場する以前から、ビジネスの世界でデジタル技術を活用した変化は起こってきました。しかし近年の変化はよりスピーディーでダイナミックなものになっています。新型コロナ感染症の対応により、働き方や人々の暮らしがデジタル技術によって短期間で大きく変化したことは記憶に新しい出来事です。  そうした変化を繰り返す中でデジタル技術が活用される範囲は広がり、人々の暮らしにとって必要不可欠なものとなる時代に突入しています。  「デジタル環境から人の暮らしまで　トータルサポートカンパニー　NECフィールディング」を目指す姿として、お客さまの事業活動を約60年に渡り支え続けたNECフィールディングが、お客さまへ提供する価値を最大化できる時代になったと考えています。  トータルサポートカンパニーという目指す姿を実現し、お客さまのご期待に応え続けるため、私たちの業務も時代に沿った多様な変革が必要となっています。量子コンピューティング技術を活用した保守部品の配送計画立案システムの導入、IoT活用によるリモート保守の拡大、AIチャットボットによる受付業務の高度化など、様々なデジタル技術を活用したDXに2015年より注力しています。  こうしたDXの取り組みを加速させるため、①生産性向上・品質向上、②働き方改革、③営業プロセス変革という3つの視点で、全社横断的に推進する専任組織として、DX推進室を2022年4月に発足しました。  また、劇的な変化を続ける時代において、お客さまのご期待に対して早く正確に応え続けるためにはNECフィールディングが長年に渡ってお客さまとともに蓄積してきたナレッジやノウハウをデータとして活用することが重要であると考えています。そのため、現在はデータを統合した活用環境の整備やAIを活用した付加価値の高いサービスの創造を推進しています。これにあわせて、データを活用するデータサイエンティストの育成にも注力しており、2025年度戦略指標として100名という目標を掲げています。  トータルサポートカンパニーとして、「お客さまにとってなくてはならない企業」となれるよう、全社一丸となって変革に取り組んで参りますので、今後もより一層のご愛顧を賜りますよう、心からお願い申し上げます。 |   　(5) 実務執行総括責任者が主導的な役割を果たすことによる、事業者が利用する情報処理システムにおける課題の把握   |  |  | | --- | --- | | 実施時期 | 2025年　5月頃　～　2025年　6月頃 | | 実施内容 | 「DX推進指標」による自己分析を行い、IPAの自己診断結果入力サイトより入力しております。 |   　(6) サイバーセキュリティに関する対策の的確な策定及び実施   |  |  | | --- | --- | | 実施時期 | 2022年　9月頃　～　2022年　10月頃 | | 実施内容 | 当社のリスク管理については情報セキュリティ基本方針に基づいて制定した「内部統制システムの整備に関する基本方針」に則り、各主管部門が必要な制度・規定を整備しPDCAを回しています。サイバーセキュリティについては個人情報保護、サイバー攻撃への防御、システム構築に関する課題等の観点から対策を講じて実施しています。 |   （注）(1)～(3)の取組において公表先のURLを提出しない場合は次の①の書類を、(4)の取組において情報発信内容を確認できるウェブサイトのURLを提出しない場合は、次の②の書類を添付すること。また、必要に応じて③、④の書類を添付できる。  ①　(1)～(3)の取組における、公表を行っていることを明らかにする書類（公表先のウェブサイトの画面を印刷した書類等）  ②　(4)の取組における、情報発信を行っていることを明らかにする書類（情報発信内容を確認できるウェブサイトの画面を印刷した書類等）  ③　(1)の取組における企業経営の方向性及び情報処理技術の活用の方向性、(2) の取組における戦略を補足説明するための書類（最新の情報処理技術の変化による影響を踏まえた観点から決定していることを説明する書類等）  ④　(5)～(6)の取組における、実施内容を補足説明するための書類 |

備考．用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とすること。

様式第１７（第４２条関係）（第四面及び第五面）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 情報処理の促進に関する法律施行規則第４１条第２号の基準による認定の更新を受けようとする場合は、以下についても記載すること。  　(1) データ連携システムの運用及び管理に関する説明   |  |  | | --- | --- | | データ連携システムの目的、概要に関する説明 |  | | データ連携システムの運用及び管理を開始した日 | 年　　月　　日 | | ガイドラインその他の機構が定める文書等の名称 |  | | 開発、運用及び管理を共同で行うことが合理的であることの説明 |  | | データ連携システムにおいてデータ流通機能及び連携サービス機能を有することの説明 |  |   (2) 利用者に対するデータの管理に関する事項の開示   |  |  | | --- | --- | | 文書等の名称 |  | | 記載箇所・ページ |  | | 実施内容 |  |   　(3) データ連携システムの安全性及び信頼性の確保のために必要な措置の継続的な実施   |  |  | | --- | --- | | 文書等の名称 |  | | 記載箇所・ページ |  | | 実施内容 |  |   　(4) データ連携システムに接続する情報処理システムの安全性及び信頼性を確保されていることを確認するために必要な措置の継続的な実施   |  |  | | --- | --- | | 文書等の名称 |  | | 記載箇所・ページ |  | | 実施内容 |  |   　(5) 他のデータ連携システムとの相互の連携を確保するためにデータ連携システムが準拠する基準の公表   |  |  | | --- | --- | | 公表媒体（文書等）の名称 |  | | 準拠する基準に対してデータ連携システムで機能を整備していることの説明 |  |   　(6) データ連携システムに係る事業の実施に必要な経営の安定性及び経営資源の確保   |  |  | | --- | --- | | 経営の安定性の確保に関する説明 |  | | 経営資源の確保に関する説明 |  |   （注）(1)～(6)の取組においては、必要に応じて実施内容を補足説明するための書類を添付するものとする。 |

備考．用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とすること。

様式第１７（第４２条関係）（第六面）

（記載要領）

１．「申請年月日」欄は、経済産業大臣に認定更新申請書を提出する年月日を記載すること。

２．「住所」欄は、一般事業主が法人の場合にあっては、主たる事務所の所在地を記載すること。

３．一般事業主が法人の場合であって法人番号が記入されている場合は、一般事業主の氏名又は名称、代表者の氏名、住所の記載を省略することができる。

４．申請を行う類型について、該当するものの番号を○で囲むこと。

５．申請内容は正しく記載すること。認定更新後、虚偽または不正の申請を行ったことが判明した場合には、認定の取消し等所要の措置を講ずることがある。